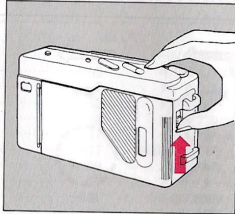


やさしい
使いかた

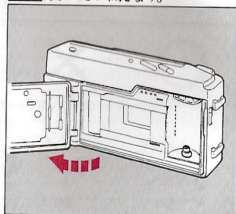
フィルムを 入れます

このカメラはDXコード付
フィルム対応です。
DXコード付フィルム以外は
ISO 100のフィルムを
ご使用ください。

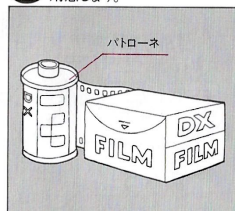
1 ノブに指をかけ、押し上げます。



2 裏ぶたが開きます。

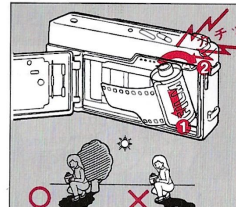


3 DXコード付フィルムを
用意します。



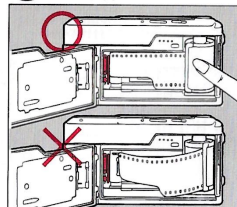
DXコード付フィルムとはISO感度自動セット
のできるフィルムです。

4 フィルムを入れます。



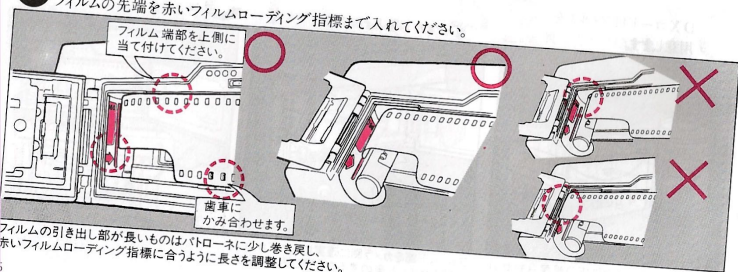
フィルム下部をカメラ側に確実にに入れてから、
上部をカチッと音のするまで押し込んでくだ
さい。
フィルムの出し入れは日陰で行ってください。

5 フィルムが浮かないよう
押さえます。



6

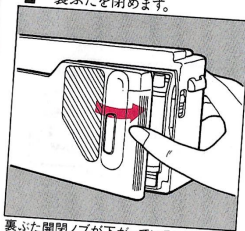
フィルムの先端を赤いフィルムローディング指標まで入れてください。



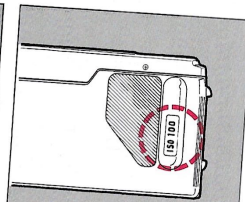
フィルムの引き出し部が長いものはバトロネに少し巻き戻し、赤いフィルムローディング指標に合うように長さを調整してください。

7

裏ぶたを閉めます。



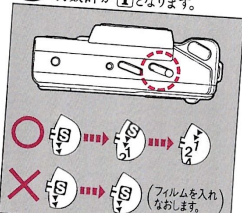
裏ぶたの開閉ノブが下がっていることを確認してください。



フィルムの確認ができます。

8

自動的にフィルムが送られ、駒数計が「1」となります。

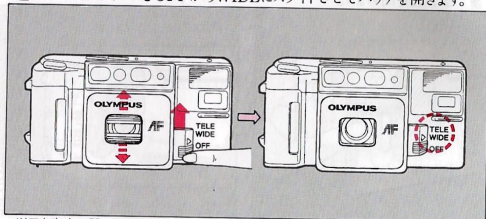


作動音がするのにフィルム駒数計が「S」のままのときはフィルムが正しくセットされていないので、正しくセットし直してください。

写します。

1

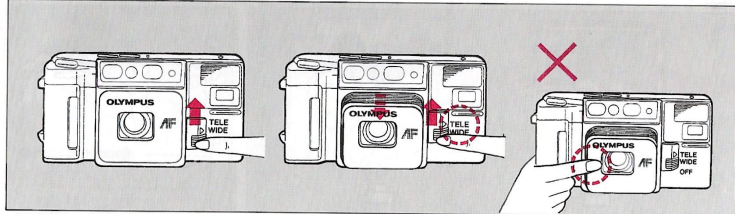
レンズセクターをOFFからWIDEにスライドさせてバリアを開きます。



バリアを完全に開かないとシャッターが切れません。使用しないときは不用意なシャッター切れを防ぐためバリアは必ず閉じてください。

2

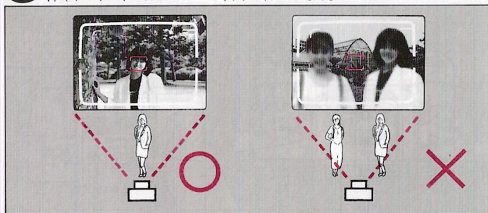
ワイド(広角36mm)かテレ(望遠60mm)を選びます。



バリアが開いた状態でワイドです。レンズセクターをもう1段スライドさせるとテレになります。

レンズくり出し部に手がふれたままレンズセクターをスライドさせるとテレに移動の途中で止まります。このまま撮影すると、ピン트가ボケます。途中でレンズが止まったときは一旦ワイドに戻してからもう1度テレにしてください。

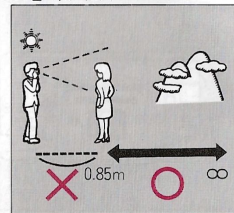
3 ピントを合わせたいものを真中の小さな枠(オートフォーカスフレーム)内に合わせます。



オートフォーカスフレームが被写体からはずれないように注意してください。

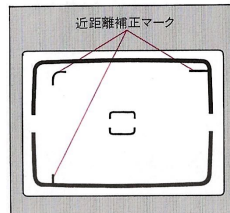
上のような場合、バックにピントが合ってしまう。このような時フォーカスロックを使います。(P17、18を参照)

4 撮影範囲

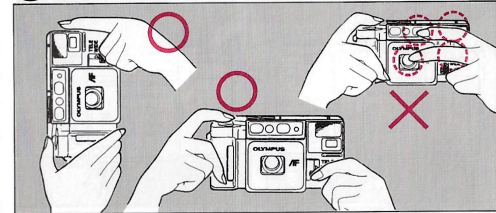


撮影は0.85m～∞の距離範囲内で行ってください。

5 正しく構えましょう。

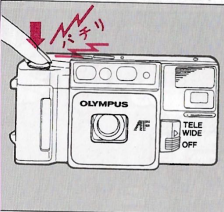


被写体が0.85mのときはファインダーの補正マーク内が撮影範囲になります。



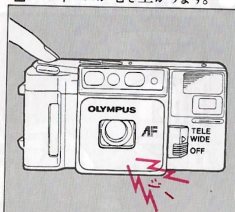
レンズ、ストロボなどに指がふれないように注意してください。

6 シャッターボタンを押します。



シャッターボタンの早押しは手ぶれの原因となります。

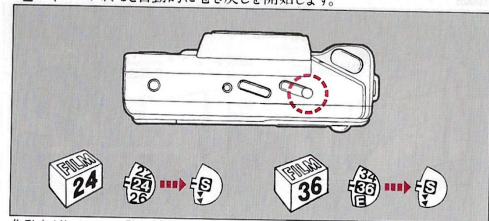
7 指を離すと自動的にフィルムが巻き上がります。



作動音があります。巻き上げが完了すると駒数計が一つ進みます。

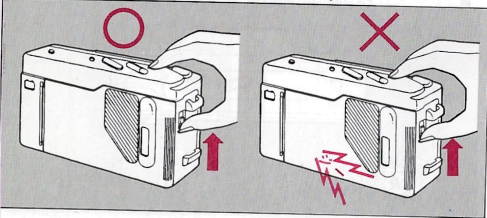
フィルムの取り出しかた

1 フィルムが終ると自動的に巻き戻しを開始します。

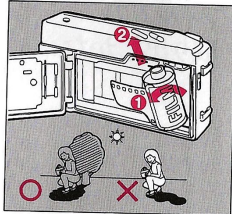


作動音が出てフィルム駒数計が一つずつSまで戻ります。フィルムの終りの駒数は26または36よりも多くなる場合があります。

2 作動音が止まってから裏ぶたを開けてください。

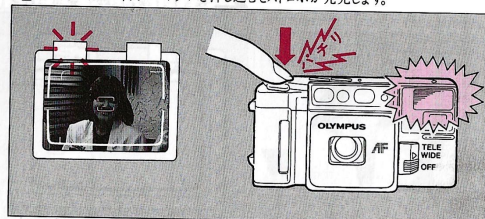


3 フィルムを取り出します。



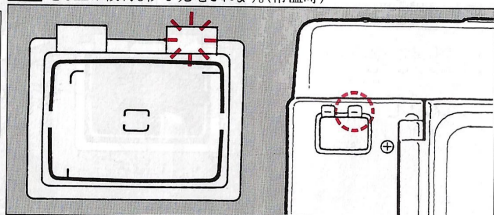
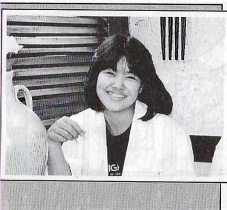
ストロボ 自動発光 について

1 暗いところではシャッターボタンを軽く押すと、ファインダー左上に黄色ランプが点灯します。さらにシャッターボタンを押し込むとストロボが発光します。



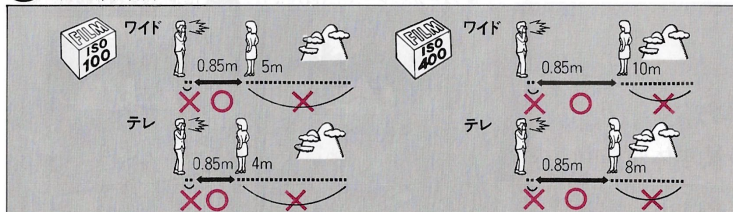
バリアを開けたまま長時間放置した後に撮影するとストロボが発光しないことがありますので、バリアを一旦閉じて開けなおしてから撮影してください。

2 巻き上げ後約3秒で充電されます。(常温時)



充電中はファインダー右上の赤ランプが点灯します。
点灯中に撮影してもストロボは発光しません。

3 ストロボ撮影範囲

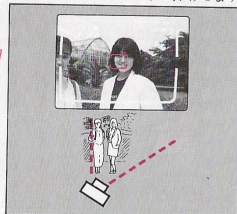


ネガカラーフィルムを使用した場合、フィルムの露光過不足を許す範囲が広いので、上の撮影範囲で良好なプリントが得られます。

よりよい写真を撮るために

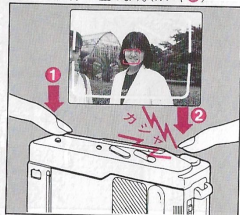
フォーカスロックの
使いかた
被写体が真中の枠
(オートフォーカスフレーム)
からはずれるとき

1 被写体を小さな枠(オートフォーカスフレーム)に合わせます。



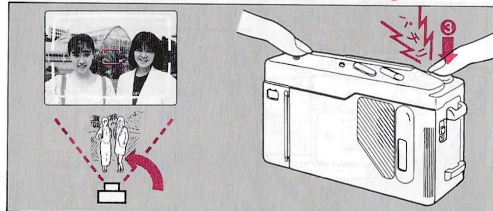
例えば右側の人物の顔を小さな枠(オートフォーカスフレーム)内に完全にに入れてください。

2 ①のフォーカスロックボタンを押しながら②のシャッターボタンを軽く1段押し止めます。(カシャ②)

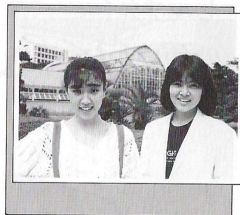


②のシャッターボタンを強く押し切るとシャッターが切れますから、ご注意ください。

3 そのまま構図を戻してシャッターを押し切ります。(パチリ③)

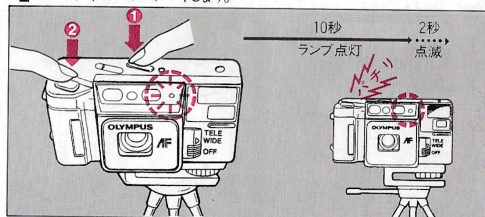


シャッターボタンから指を離せばフォーカスロックは解除されます。



セルフタイマー の使いかた

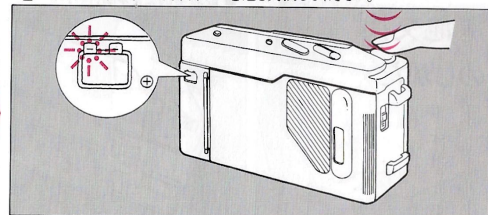
1のセルフタイマーボタンを押しながら**2**のシャッターボタンを押すとセルフタイマーがスタートします。



オートフォーカスレームに被写体が入ることを確認してください。約12秒後にシャッターが切れます。シャッターが切れる前の2秒間はランプが点滅します(10秒間は点灯のまま)。作動中にバリアを閉じるか、セルフタイマーボタンを押すとセルフタイマーは解除されます。裏ぶたを開けるときは三脚からはずしてください。

バッテリーの 交換時期

1 シャッターボタンを軽く1段押したとき、ファインダー左上の黄色ランプが点滅するようになったら、新しい電池と交換してください。



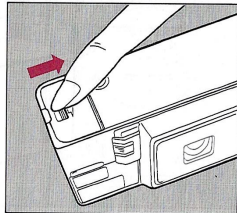
但し次のような場合には比較的新しい電池でも黄色ランプが点滅することがありますが、電池交換の必要はありません。

(1)低温時 (2)バリア開放直後 (3)ストロボ発光直後
黄色ランプが点滅している時はストロボの発光表示はできません。

電池交換
のしかた

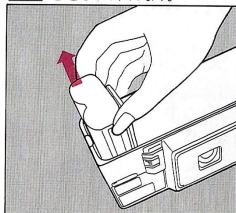
1

電池室のふたを開けます。



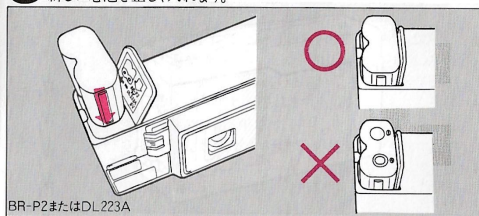
2

電池を取り出します。



3

新しい電池を正しく入れます。

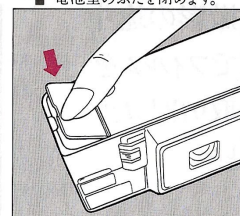


BR-P2またはDL223A

電池は市販の6Vパックリチウム電池をご使用ください。

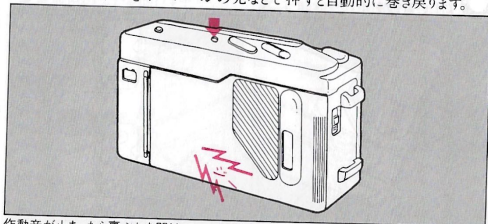
4

電池室のふたを閉めます。



撮影の途中
でフィルムを
取り出したい
とき

1 巻き戻しボタンをボールペンの先などで押すと自動的に巻き戻ります。



作動音が止まったら裏ぶたを開け、フィルムを取り出します。(取り出しかたはP.13を参照してください。) 巻き戻しボタンは強く押さないように注意してください。

クォーツデートの使いかた

オリンパスAFL-Tクォーツデートのデータ部には購入時すでに電池がセットされ、日付は調整済みです。しかも2019年までのうるう年や大小の月も自動的に修正するLSIが組み込まれていますから、そのまま正確な日付、時間が写し込めます。ISO感度は自動セットされます。

電池の寿命は約5年です。

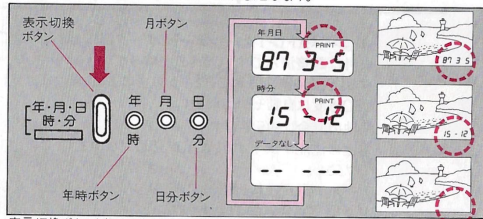
電池の性能が低下すると表示が見えにくくなります。このときは新しい電池と交換してください。

データの写し込まれる部分に白やオレンジがかった色の被写体があるとき、データが写し込みにくくなることがあります。

使用温度(31ページ参照)を超えた条件では正常に働かないことがありますが、常温に戻せば正常に働きます。

年月日または 時分の 写し込みかた

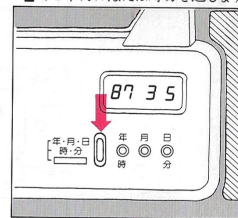
表示切換ボタンを押して写したいものを選びます。



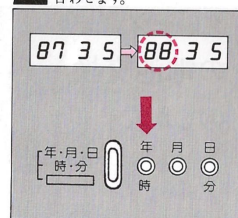
表示切換ボタンを押すと順に表示が変わります。
シャッターを切ると「PRINT」と表示され、写し込まれたことがわかります。

データの 修正

1 表示切換ボタンを押して修正する年月日、または時分を選びます。



2 修正したいボタンを押して合わせます。

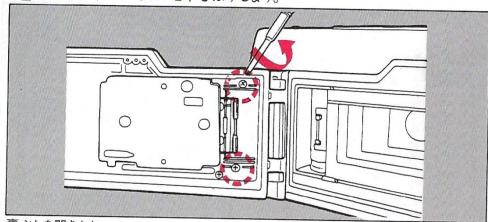


時報に合わせて正しい時間をセットするときは、時分モードにしてから時報に合わせて月ボタンを押します。その後、分を確認してください。

クォーツデイト
の電池交換
のしかた

1

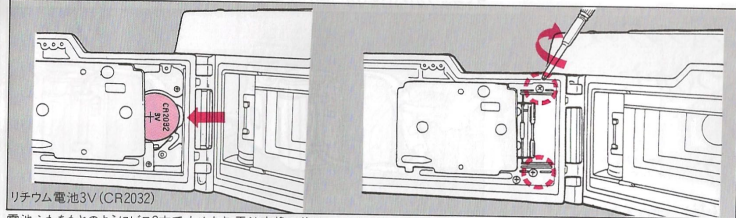
精密ドライバーでビス2本をはずします。



裏ふたを開きます。

2

電池の⊕⊖をまちがえないように正しく入れます。



リチウム電池3V (CR2032)

電池ふたをもとのようにビス2本で止めます。電池交換の後は、データの修正をしてください。

こんなときは、こうしましょう。

Q & A

- ①フィルムを入れずに作動しますが。
②フィルムを入れなくてもバリアが開いているとき、シャッターボタンを押すとシャッターが動作し、暗ければストロボも光ります。バリアを閉じると全く動きません。
なお、ストロボを連続して発光させると熱をもつことがあります。異常はありません。
- ③カメラが作動しません。どうしたらよいのでしょうか。
④①バリアを完全に開けてください。②電池の有無、および向きを確認してください。③電池が弱ったら交換してください。
⑤ストロボが発光しません。
- ⑥連続してストロボ撮影を行なうとストロボ充電時間が遅くなり、ストロボが発光しない場合があります。ストロボ充電中表示ランプが消えてから撮影してください。また、バリアを開けたまま長時間放置した後に撮影するとストロボが発光しないことがあります。バリアを一旦開閉してから撮影して

ください。

- ⑦電池はどのくらいもちますか。
⑧長寿命のリチウム電池を使用していますから、約40本(24枚撮り・ストロボ使用率50%)の撮影ができます。たとえば1年に24枚撮りフィルムを8本撮影したとして(半分ストロボ使用)約5年間もちます。ストロボ使用頻度が少ない場合には、さらに長もちします。
- ⑨寒冷地でカメラが動かなくなりました。どうしたらよいのでしょうか。
⑩低温時では一時的に電池の性能が低下します。カメラを保温しながらご使用ください。
- ⑪裏ふたを開けたらフィルムが巻き取りスプールに巻きついたまま外れません。
- ⑫電池消耗時または低温時には、巻き戻しの終了時にフィルムが巻き取りスプールから外れないことがあります。カメラからバトロネを外し、バトロネから出したフィルムを持ち上げます。巻き取りスプール(P.36参照)の上から指先を押して、フィルムを巻き上げる方向に動かし、フィルムを

カメラから引き出します。(フィルムが巻きついて巻き取りスプールが見えない場合は巻きついたフィルムの上から指先を押して回してください)

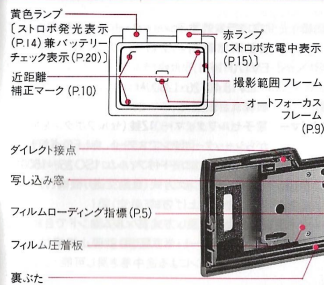
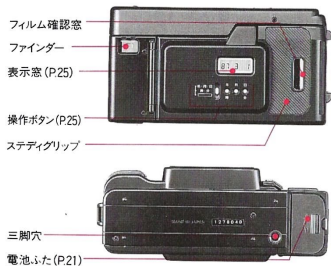
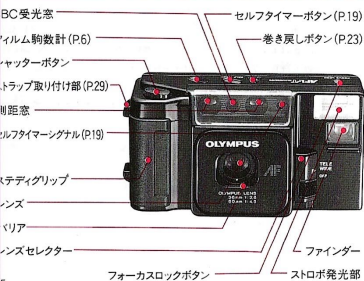
- ⑬ピントのボケた写真が撮れたのですが。
⑭①レンズをワイドからテレに切り換えたとき、レンズが途中で静止したまま撮影するとピントがボケます。(P.8参照)
②次のような被写体がピントが合っていないので同じ距離にある他の被写体でフォーカスロックをしてください。
①光沢のあるもの ②黒いもの ③ガラスや金網ごしの場合
④炎 煙など ⑤太陽が画面内にあるとき
- ⑮電池を購入したいのですが。
⑯お買い上げ店、または、お近くのサービスステーションにお申し出ください。
⑰ファインダーのピントがボケているのですが。
⑱レンズの繰り出し部が途中で止まっています。レンズセクターをもう一度セッティングしてください。

アフターサービス

アフターサービスについて

- 1.保証書はお買上げの販売店からお渡しいたしますので、「販売店名・お買上げ日」等の記入されたものをお受け取りください。また、保証内容をよく読みの上大切に保管してください。
- 2.保証期間中、万一故障した場合は「保証書」をお読みの上お買上げ店またはお近くの当社サービスステーションにお申し出ください。
- 3.保証期間経過後の修理については原則として有料となります。また運賃諸掛りはお客様にご負担願います。
- 4.本製品の補修部品は、製造打切後7年を目安に保有しております。したがって本期間中は原則として修理をお受けいたします。なお、期間後であっても修理可能な場合もありますので、お買上げの販売店または、当社サービスステーションにお問い合わせください。

各部の名称



(写真はAFL-Tクォーツでです)

